

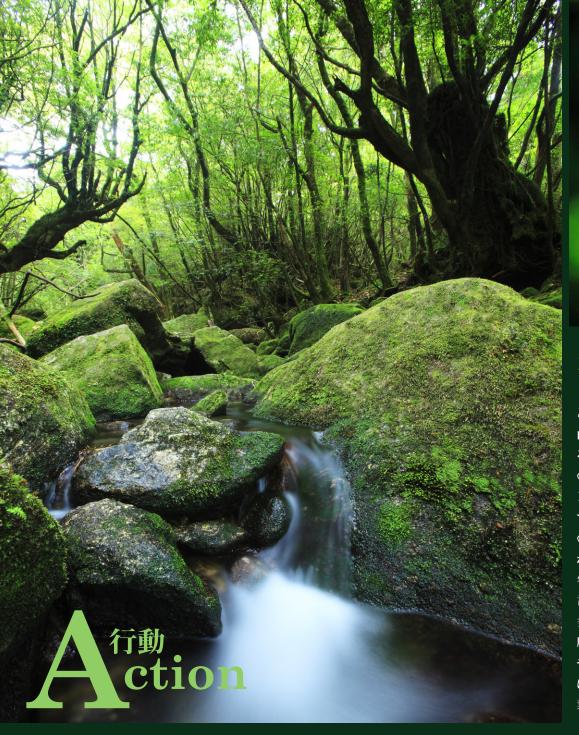




屋久島は魚の密度も半端ではない。取材時には頭上を覆うよ うなキビナゴの群れが見られ、まるで黒い雲海のようにウネウネ と動いていた。そして、それがカスミアジに追われると、群れが 巨大な生き物のように形を変えていく。さらにツムブリやイソマグ 口など回遊魚の姿も現れ、キビナゴの乱舞はいっそう激しくなっ た。マクロ系は人気のハゼ類が豊富で、ヒレナガネジリンボウや オドリハゼ等が見られる。ダイビングポイントの地形も多種多様 だ。伊豆七島っぽい雰囲気の岩礁域があると思ったら、真っ白 な砂地のポイントがあったり、アーチなど地形の変化に富んでい る。国内でも珍しいハナガタサンゴの群落を始めとして、サンゴ が海底を埋め尽くしているポイントもある。屋久島は温帯域最南 端の位置にありながら、黒潮の影響を強く受けるため、温帯種、









森が豊かであれば、海も豊かになる

屋久島は「1ヶ月に35日、雨が降る」 と言われるほど雨が多い島だ。その理 由のひとつは、洋上のアルプスと言われ るほど高い山々があること。九州最高峰 の宮之浦岳 (標高 1,935m) を筆頭に、 1,000m を超える峰々が約40峰そびえ ている。暖かい黒潮から沸く雲はこれら の 2,000m 近い山々にぶつかり、それ が雨となって降ってくる。特に山地では 年間に 10,000mm の降水量があると 言われ、豊かな森を育んでいる。この 多量の雨は、森を潤し、滝となって山 肌を駆け降り、里の人々の生活に支え、 やがて海に注ぎ込む。「森が豊かであれ ば、海も豊かになる」、屋久島はこの言 葉が実感を持って感じられる島だ。











